

話し合いに応ずる

チツソ 回答 告発側、工場から退去

「告発」の行動がどう影響するか成り行きが注目される。

二十五日午前十時すぎ「チツソは新認定患者の要求を受け入れて自主交渉に応じよ」と、チツソ水俣工場にたれ込んだ水俣労働者連合会（本由啓吉代表）の一部既報の六十人は、午後二時、会社側が「十一月四日以降代表との話し合いに応ずる」と回答したため

すわり込みをとり引き揚げる機動隊出動などの事態は避けられた。十時すぎ工場内に入った会員たちは、事務所前にすわり込んで、従業員とにらみ合い、十一時すぎには工場側が退去命令を出すことも、待機中の機動隊の出動を要請した。しかし、水俣組は当事者

同士の話し合いを説得したため、会社側は本社に出張中の佐々木支社長と打ち合わせた結果、午後二時前「十一月四日以降代表と話し合いをする。日時、場所については四日以降本由代表に連絡する」と回答した。これで告発する会は納得。すわ

り込みをとり、デモ行進しながら工場内から退去、二時十五分には全員が水俣駅へ引き揚げた。この間、工場正門付近で工場従業員と、正門外で交通整理中の水俣組ともみ合ったが、大きな混乱はなく、工場近くに前進待機中の機動隊は出動しませんでした。

なお、新認定患者は十一月一日ごろ三度目の補償交渉を行なうことになっているが、二十五日の